



吉丸校長の講演に真剣なまなざしで耳をかたむける小中学校の先生方

心の豊かさが学びの基礎

村学校教育研究会総会が6月2日、村教育委員会（沼田英雄教育長）主催で開かれ、村内の小中学校教諭約50人が参加、平成15年度の事業計画など話し合いました。

研究会総会では、村内の教職員が研修や研究を組織的に推進するなど教育向上のため努めることを確認。

続いて「学びの基礎を育てる」と題して盛岡市立桜城小学校の吉丸蓉子校長が講演しました。

吉丸校長は教師のあるべき姿など、具体的な事例をあげながら切々と訴え「教室は朗らかな笑いに満ちていなければならない。豊かな心を育てることによって、学びの基礎が育まれ学力向上につながっていきます」と、先生方に力強くエールをおくりました。

縁結び、安産の神として古く

同神社は大漁、海上安全、

それぞれの思いを祈

ました。

霧に煙った例大祭

大同二（八〇二）年開山といわれる鵜鳥神社の例大祭が五月八日（旧暦四月八日）に行われました。当日、神社は霧に包まれ、写真に肌寒く天候には恵まれませんでした。村内はもとより、三陸沿岸各地から訪れた参拝者でにぎわいました。

願した後、おみくじやお札を買ったり、神楽殿で舞われる鵜鳥神楽を鑑賞したりと、思い思いに楽しんでいました。



心の絆に感動

村内四小学校の児童百九十二人を対象に六月三日、青少年劇場「演劇集団未踏」主催の児童劇、ムカミラー国・コロシアムの野外劇が村社会体育館で開かれました。児童劇は、お母さんと息子イタロウの心のつながりや絆、命の大切さをテーマにした物語です。

時は冬、イタロウはお母さんと待ち合わせをしているいつもの場所から、遠く離れたハマナス万博あとまでお母さんに内緒で来て



しまいました。そこで遊んでいたキタキツネの子、コンを犬と間違えて仲間になったイタロウは楽しい冒険をします。しかし、お母さんは、イタロウを探して荒れ狂う吹雪の中にとび出して行きました。

お母さんは、無事イタロウを探し出せるのでしょうか。子どもたちは、はらはらどきどきしながら舞台を見詰めます（写真）。お母さんとイタロウはついに原っぱでお互いを見つめ、しっかりと抱き合いハッピーエンドで幕は下りました。普及小の大上真弥さん（三年）は、「どんな劇だろうと今日をとて楽しんでおりました。思っていたとおり楽しかった」と話し、掘内小四年の新屋康太君は、「ムカミラー国のコロシアム（円形劇場）でキタキツネの子どもたちが無事でよかった」と、笑みを浮かべてうれしそうでした。